

第1回技術検討部会における課題と対応

令和7年2月10日

兵庫県

1. 第1回技術検討部会における課題

■第1回技術検討部会における主な指摘・意見の一覧

指摘・意見		内容・対応状況	
大阪湾沿岸	2.1	沖波条件の記載	水深が波長の 1/2 より浅い箇所において、海底地形による波の変形を考慮して推算された沖波は、準沖波となる。大阪湾沿岸における全ての沖波推算地点の水深を確認したところ、準沖波であることが確認されたため、資料中の記載を修正した
	2.2	4°C上昇シナリオでの検討成果の活用方法	2°C上昇シナリオを前提として検討を進める。4°C上昇シナリオは、あくまでも参考値として取り扱う
	2.3	気候変動の影響を考慮した台風モデルの妥当性確認手法	妥当性について確認中
	2.4	2°C上昇シナリオにおける台風の強大化と海面上昇についての留意点	2°C上昇は、2050年頃にCO2削減により気温が安定することを前提としている。そのため、気温の変化に影響されやすい台風の強くなるピークは、2100年でなく2050年頃と考えられる。一方、海面は、2100年までゆっくり上昇を続けると考えられる。2°C上昇で想定しているそれぞれの時間的変化の予測結果を資料に追加した
但馬沿岸	3.1	沖波条件の記載	水深が波長の 1/2 より浅い箇所において、海底地形による波の変形を考慮して推算された沖波は、準沖波となる。但馬沿岸における全ての沖波推算地点の水深を確認したところ、今回波浪推算で用いる推算地点は準沖波であることが確認されたため、資料中の記載を修正した
	3.2	気候変動の影響を考慮した台風モデルの妥当性確認手法	妥当性について確認中
	3.3	台風期朔望平均満潮位の設定値	観測データを基に朔望平均満潮位を見直して T.P.+0.69m としたが、0.1m単位で丸めて T.P.+0.70m とする